

広島大学図書館蔵『天神之御本地』寛永二年写本 翻刻(二)

広島大学日本語史研究会

ここに翻刻する広島大学図書館蔵『天神之御本地』(国文N二三四二モノ後156)は、広島大学中央図書館貴重書室に蔵される、寛永二年(一六二五)三月の写本である。書名は、内題による。

本翻刻は、本誌『国語教育研究』第五十八号「広島大学図書館蔵『天神之御本地』寛永二年写本 翻刻(一)」に続くものであり、この(二)をもって完結する。翻刻のご許可を頂いた広島大学図書館に対し、心中より御礼申しあげる。『国語教育研究』第五十八号に簡単な史料解説をしている。御参照願いたい。

〔凡例〕

(以上、佐々木 勇 記)

一、本翻刻は、『天神之御本地』(国文N二三四二モノ後156)の原本に基づき、原本の行取りで、現行の字体に改めたものである。仮名遣いも、原本のままとした。

一、促音・舌内入声音に使用される  は、「ツ」で示した。

一、 のごとく記される助数詞「つ」は、小字右寄の「ツ」で示した。

一、その他、必要と思われる注を、「」に入れて当該箇所¹に記した。

一、本翻刻は、坂水貴司・申智娟・本間啓朗・檜崎寛之・糸山由樹・西浦瑞姫・板谷智美・田中園絵・畠山ともみ・岡村和奈・土肥新一郎・早田奈美・宮崎若菜・山口倫香・佐々木勇で作成した。なお、本文入力作業は本間が行ない、佐々木が確認した。

〔翻刻〕

(二十一丁・表)

- 1くきやう大しんおしなへてそんいをおかみ申
- 2さぬはなしかくてそうしやうはこれまてなりとて
- 3山へ歸らせ給ひけりその、ち四ヶ年すきてゑん
- 4き七年三月二日にしへいのおと、大事のなや
- 5み身につきてこれはかんせうしやうのたゝりかと
- 6おほえたりいまはかうよとおもへ共もしやたすかる
- 7とておんやうしをかたらいておしきたからともなけ
- 8すてくいろくさまくのまつり事をあり
- 9けれ共すこしのけんもなかりけりもしやくすり
- 10にてたすかるとていしをたのみてれうしをあれ

(二十一丁・裏)

- 1ともさらにげんもなし日にそへてなやみはおも
- 2くならせ給ふほとにきたの御かたも一け一もん
- 3ねうはうなんはうあつまりてなきかなしみ
- 4たまへともいよくくつうはおもくなれはとく
- 5しなはやとのたまひけりもしやたすかる事
- 6のありやせんよと思ひ世にすくれて物のたゝ
- 7りをもいのり給ふしやうそうきそうをたのみ
- 8申さんかのしやうそうきそうはしゝたる物をもい
- 9のりたまへはよみかへると申しやうりうはうの
- 10けんせうりツしの御でしにて十はかりよりま

(二十二丁・表)

- 1わうき神をかうふくしたまふ一さいちにな
- 2にてましませはいそきしやうし申けりきそうは
- 3やかてふどうのほうをおこなひたまひて大日

- 4のうらなひを見たまへはこれはちやうこうのなや
- 5みなりひやうさうを見ればはやしきうつき給ふ
- 6ほとになかくゝわかちからにはかなふましきよし
- 7ありければしへいのおとゝのたまふやうとても
- 8しに申へきにつけてなをいのり申たく候
- 9そのゆへはいまのくるしみをすこしもやすめ
- 10たまはゝ心やすくりんしゆう申さんとありければ

(二十二丁・裏)

- 1さらはいのり申さんとてしんきやう一二巻よみ
- 2たまへはしよ神のほうらくありてやくしくん
- 3ひら大しやうせんしゆの二十八ふしゆをしやうし
- 4たてまつりかすくゝのきやうもんたらにをしゆし
- 5て天地もうこくはかりなりければよりましは
- 6きもをけしなみいてちやうもんする人くゝは
- 7身のけゆたつていかやうなる物かいてすらんと
- 8おもふところによりましにはすこしもわたらすし
- 9てしへいのおとゝのひたりのみゝのあなより
- 10あをいろなるどくじやかしらをさしいたして

(二十三丁・表)

- 1くちよりくはゑんをはきいたすこれを見る人
- 2いよくゝ身のけゆたつてにくるものもありしやう
- 3さうきさうはすこしもさはかすあふきをはら
- 4くゝとひらきてつかひかのとくしやをはつたと
- 5にらめたくせんよくしたまへとせめられけるに
- 6しはらく物もいはすしやうさうきさう又じゆ
- 7すをおつとつていたけたかになりていかりをなし
- 8ていのらんとしたまふを見てあらくるしや御はうよ
- 9さのみなせめ給ひそこれほとにすかたをあらわれ

10 見え申うへはくはしくなのりてきかせ申さん

(二十三丁・裏)

- 1 われみかどにつかへ申てすこしもにこれる心も
- 2 なしあけくれのいとなみはきみのためにいのる
- 3 いのりはわたくしなきをきみゑいらんありてさらは
- 4 ばんきのまつりことをはかりするなりおしなへて
- 5 せいじんすへきよしりんけんありしかとも我は
- 6 う大しんのくらいなり我よりうへのさ大しんたち
- 7 ましませはいかゝと思ひてありつるにまして
- 8 しへいかせうろくをうはふ事もなかりしに
- 9 なにのにくさにむしツのさんをはなしけるそ
- 10 我つくしへなかされ申せしときつまや子共

(二十四丁・表)

- 1 のうきわかれたかひになけきしなみたたゝ
 - 2 いまさいし一け一ものそのなけきはいつれやお
 - 3 とりまさるへき我つくしになかされ一ねんの
 - 4 すまひにうかりし思ひかさなりこの世にはか
 - 5 なくなりぬれはいかつちとなりうらみをなさんと
 - 6 するところにそんいそうしやうしていのちきり
 - 7 申ゆへたうりにつめられ申ちからおよはす
 - 8 たちさりぬ此たひはなにときさうのいのり給ふ
 - 9 ともときすてにきはまりぬ御こゑのかるゝに
 - 10 なにといのらせ給ふそやけふのくれほとにつれ
- (二十四丁・裏)
- 1 てゆかんとてとくじやはかしらをひきいれければ
 - 2 しやうそうきそうもこれまでなりとてかへらせ
 - 3 たまへはきたの御かたもねうはうなんはうきん
 - 4 たちの御なけきは天地もひゝく計なりかくて

- 5 しへいのおとゝは御とし四十九と申せは此世はか
- 6 なくなり給ふかくてしへい一人にかきり申さす
- 7 ねうはう子ともむなしくなり給ふしへいの二
- 8 なんに八てうの大しんやすたゝのきやうもはかなく
- 9 なり給ふ三なんあつたゝのちうなこんもむなしく
- 10 なり給ふおなしく御まこのわかみやもはかなく

(二十五丁・表)

- 1 なり給ふしかれともしへいの一け一もんにほうし
 - 2 にてわたら「補入」せ給ふはすこしもうらみはなしたまはず
 - 3 三なんあつたゝの御子にすけまさのきやうと申
 - 4 せしはこのあくりやうをおそろしくおほしめし
 - 5 にはかにしゆツけたまひてごしやうをねかひ
 - 6 給ひけりいたはしのありさまやたまのかんざしとり
 - 7 すてゝみどりの御くしをそりをとしりうらきん
 - 8 せうの御そてにらッしやのにほひあざからす
 - 9 いつしかひきかへすみそめの御ころもにかうの
 - 10 けふりをうつしたまひたまのうてなのあらし風
- (二十五丁・裏)
- 1 をもいとひ給ひしかいまはひきかへ人めまれなる
 - 2 山里にくさのいほりをひきむすひつま木
 - 3 をひろい水をくみこしやうをねかひ給ふなり
 - 4 とし月ほどなくをくるほとにはやむそちあまり
 - 5 になり給ひけりすていのちおほらせ給ひし時
 - 6 は二十五のほさツのらいかうとおほえてしうんた
 - 7 なひきそらよりおんかくきこえて花ふり
 - 8 いきやうくんしてくはんおんせいしはれんたいをかた
 - 9 つけたまふにのり給ふを見る人きく人たゝねかふ
 - 10 へきはこしやうなりとそ申けるかくてゑんき

(二十六丁・表)

- 1のみかとの御いとこにきんちうのきやうと申せし
- 2人にはかに御なやみありしてどんしし給ふあまり
- 3になさけなきやうにしなせたまへはしはらくをき
- 4申なけきかなしみ申ければ三日と申あした少
- 5いきかよひしかよみ歸りたまひけりされはとんしにする人をは三日をくとは此ときより申
- 7けるかくてきんちうのきやういきのそこより
- 8おほせられけるは我子ののふあきのきやうはと
- 9ありければこれにさふらうとこたへたまへはいかに
- 10のふあきのきやういそき大りへまいりて申度

(二十六丁・裏)

- 1事のさふらふとのたまへはうけたまはり候とて
 - 2ちゝをひきつれ申大りへまいり此よしかくと
 - 3そうすれはみかとおとろきおほしめしてやかと
 - 4いてあひたまひければきんちうのきやう申給ふやう
 - 5さて我ゑんまわうくうへまい「合字」りて見申候へはその
 - 6たけ一ちやうあまりなるみやうくはんの御手にはこかね
 - 7のふだをさしあけての給ふやうさてもしやば
 - 8せかいの中に日本こくのあるしゑんきのみかと
 - 9のつみとかあさからすいそきめいどへむかひとりて
 - 10さいたんせはやとおもへともされともかのみかと
- (二十七丁・表)
- 1はくにくのいのりゆへしよてん三ほうのしゆご
 - 2し給ふほとにろめいしはしたすかりぬとありけるそ
 - 3のかたはらをみれはあるひはむらさきあるいははな
 - 4たあるひはくれなゐ五しき十しきいろく
 - 5のかさりき給ふみやうくはんみやうしゆ三十人

- 6ならひいたまひたりその三はんめにいたまひたる
- 7みやうくはんあツくうけなることはにてのたまふ
- 8やうゑんきといふねんかうのおはらぬさきに急
- 9かのみかとをむかひとツてつみとかをかしやく
- 10せんといかりしよしをかたり申ければみかとおとろ

(二十七丁・裏)

- 1きおほしめしさらはいそきねんかうをかへんとて
 - 2ゑんちやうぐはんねんとそあらためけりさてきん
 - 3ちうのきやうは大りをまかりてたまへはもと
 - 4ことくむなしくなり給ふあるときかんせうしやう
 - 5はみかとのましますせいりやうてんにけんして
 - 6むかしの事をかたりたまへはみかとはおほきにお
 - 7のゝきおちおそれ給ひけるとかやそのゝちゑん
 - 8ちやう八ねん六月廿六日にせいりやうてんのひつち
 - 9さるのうへに又らいてんしていかつちとびさかり
 - 10なりわたるこゝにう中へんのあツそんといふ物は
- (二十八丁・表)
- 1らいくはにおもてをやかれたをれふしたり又
 - 2大なこんきよつらのきやうのき給ふかりきぬに
 - 3らいくはつきてふしまろひておめさきけひて
 - 4そのまゝやけうせぬかやうにらいくはにやけ
 - 5しぬもありあるひはらいでんのひゝきにきもを
 - 6けてしぬもありあるひはちきにけころし
 - 7給ふもありかやうにしぬものなんによとも八
 - 8余人さてもかんせうしやうをてんしていかつち共
 - 9なりちんつうじざいに御身をへんしたまへは
 - 10すなはちけんそくをは六十まん八せんとなり給ふ
- (二十八丁・裏)

- 1 第二はんのけんそくをはくはらいちんと申第三
 - 2 はんのけんそくをはとくしんと申此けんそくたち
 - 3 のあらし事をはしたまひたりその日のらいてん
 - 4 はたゝとき中の事なれはなにの御きたふも
 - 5 しあわせさりけりみかとはやうく御いのち計
 - 6 たすかりたまひてすなはち御くらいを御すめり
 - 7 ありて十一にならせ給ふわうしに世をゆつり給ふ
 - 8 ゑんきはやかてその日に御しゆツけありけれ共
 - 9 十かをたにもすこさせたまはず御とし四十六にて
 - 10 むなしくならせ給ふかくてねういんの御なけき
- (二十九丁・表)
- 1 日にそひてひすひのかんさしはしほれせいたい
 - 2 のまゆすみもうちみたれさんこのまくらの
 - 3 したはなみたなかれてうみとなるいつのあし
 - 4 たいかなるゆへにか御すかたを見たてまつる事
 - 5 のあらんとそかなしみたまふその比にツそうしやう
 - 6 になはきんほうさんのいわ屋にこもりておこなひ
 - 7 給ひけるかそのとしの八月一日むまの時から
 - 8 にツそうしやうにんとんしにしてましますいわ
 - 9 屋の事なれはそのまゝをしこめ申かのきん
 - 10 ほうさんにはざわうこんけんたちたまふかのごん
- (二十九丁・裏)
- 1 げんにツそうしやうにんをひきつれ申さんかい
 - 2 流てんしてちこくを見せしめ給ふまつ三十三
 - 3 てんをみせ申さんとてくうむへんしよしきむ
 - 4 へんしよひさうてんひゝそうてんこの四天
 - 5 をはみせたまはずそのほかにきて見給ふ
 - 6 ところはまつしきかいに十七の天ありしよ天

- 7 に三てんありほんしゆてん大ほん天たい二に
 - 8 三天ありせうくわうてんむりやうくはうてん
 - 9 こツくわうてんたい三に三てんありしやう天
 - 10 むりやうしやうてんへんしやうてん第四に八
- (三十一・表)
- 1 てんありむうてんふくしやうてんくはうくはてん
 - 2 むねツてんせんにん天しきくはうてんこれなり
 - 3 そのつきによツかいの六天はしわう天たうり
 - 4 天やまてんとそツてんけんたいしさいてんさて
 - 5 しゆみせんのきたの大かいのそこにしゆらたう
 - 6 にてかツせんをしてきすをかうふるものかす
 - 7 をしらす又ちくしやうとてかしらは人にてどう
 - 8 はむまうしなるものかすをしらす又がきとう
 - 9 とてゑんまわうくうのならいなり又にんたう
 - 10 とてかたちこそ人なれとももろくくのくをうくる
- (三十一・裏)
- 1 あるひは身のたけ一しやくあるもあり又一ちやう
 - 2 計あるもあり又めはなのなきもあり又手のなきも
 - 3 ありあしのなきもありあるひはくちより火をいたし
 - 4 ほそより火をいたして身をやぎうしなふこれは
 - 5 しやうあるものをころしてそのしゝむらをやき
 - 6 くわはやおもひしとかなりこのかきの名をは
 - 7 くわしんといふ又ちきとんともいふかきあり物を
 - 8 ちきにすれはすなはちのとよりはきいたして
 - 9 一りうもはらへいらすこれはいかなるむくひそと
 - 10 とへはこれはしやはにてあちわひのよき物をは
- (三十一丁・表)
- 1 われひとりしてくはんとおしみたるとかなり又

- 2 くはひしやうきといふかきありさんやにくい物を
 - 3 みつけてくはんとするところにあばうらせつき
 - 4 たりてくろかねのぼうにてうちころして
 - 5 うはひとりさらぬときはくはゑんとなりて少
 - 6 もあたう事なしこれはいかにととへはあれこそ
 - 7 しゆツけのものをくいうしなひいたつらに
 - 8 ついやすとかなりといふ又なひしやうきといふ
 - 9 かきありはらは大かいのこくくひはほそくして
 - 10 ありあれはいかにととへはあれこそむかしほとけに
- (三十一丁・裏)
- 1 かう花をまもらせすそうをもくやうし申さす
 - 2 た、みやうりはかりをこのみしものなりなんまん
 - 3 くうをへてもうかふ事かたし又くほうといふ
 - 4 かきあり火の中へとひ入むしをひろいしよ
 - 5 くとするこれはいかにととへはこれはしやはにて
 - 6 我いたるざいしよのあたりのうゑ木になる
 - 7 このみを人にあたへすこほれおつるまでたしなみ
 - 8 われ計くいたるとかにて三せんさいをおくる
 - 9 へし又しきけといふかきありふうふかと見え
 - 10 けるかたかいのくちよりくわゑんいて、おんなは
- (三十二丁・表)
- 1 おとこをやけはおとこはおんなをやくこれはと
 - 2 とへはあれもあちある物をふうふしてくいて
 - 3 人にはくわせさりしそのとかなり日に三度
 - 4 夜に三度たかひのくちよりほのほいて、
 - 5 たかひに身をやくなり又しよくふうといふ
 - 6 かきありいろくろくかたちむしのことしこれは
 - 7 しやはにてしゆツけのまねたりしか人をむさ

- 8 ほらんとてしらぬせツきやうをときしとかなり又
 - 9 ちきすひといふかきありかみは身をかくして
 - 10 おひさかりおもても見えされは物を見る事
- (三十二丁・裏)
- 1 まれなり身よりくはゑんいて、くい物をねかへ
 - 2 ともあははすこれほととへはあれこそうりさけを
 - 3 つくりしものなるかきよからぬ水をそへ又きよ
 - 4 からぬさかつきにて人にさけをす、めしとか
 - 5 なりかのかきのくいものにはゆ水をあたふる
 - 6 そのあかのなかる、ところにてその水のかみは
 - 7 七せんさいをふるど申なり又あるかきのかみは
 - 8 なわのこくくによれあひてこわき事つるき
 - 9 のこくくおのれか五たいをまきてあしをすく
 - 10 むなりこれはむかし物ねたみせしおんなのしかも
- (三十三丁・表)
- 1 その身はみめよきおとこを見てはあひねんふ
 - 2 かくせしゆへにかゝるすかたにて三まんかうをすこ
 - 3 すへきなり又あるかきを見るによるひる五人つ、
 - 4 の子をなしそれをちきとなすほとに子をおもふ
 - 5 みちなれはなかなみたあめのことしあれはいか
 - 6 なるむくひととへはしやはにてありしときあぢ
 - 7 あるものをこのみておとこをす、めしやうある
 - 8 ものをころしとりけたもの、子はおやにわか
 - 9 れおやは子にわかれし思ひのいんくはにてかゝる
 - 10 ありさまなるといふ又あるかきのあたりにうつくしき
- (三十三丁・裏)
- 1 わらはへありてかのかきのし、むらをくいやぶる
 - 2 これはととへはあれこそしやはにてわかかりし

- 3 とき子をもちたりけるか子もちと人にいわ
 - 4 れんはつかしきにすてつ又にくみつるとか
 - 5 なりといへりそうしてかきたうのありさまいろ
 - 6 くなれ共さのみ申におよはすさてく
 - 7 かたはらなるちこくたうを見ればくろかねを
 - 8 もつてにしひかしきたみなみへたてをし
 - 9 たりひとつにはとうくはツちこくこれはざい人
 - 10 をいろくせめにせめころしていくたひもかしやく
- (三十四丁・表)
- 1 するなりふたつにはこくちやうちこくこれは
 - 2 くらかねのなわにてしぱりをきくひかし
 - 3 てかしあしかをかけをくなり三にはしゆかう
 - 4 ちこくこれはさい人ともをいわばんじやくのあいた
 - 5 多とり入てめんつごんつあばうらせツのりき
 - 6 しんともかあふらをしほることくにをしころす
 - 7 なり四にはけうくわツちこくこれはかきとも
 - 8 あつまりてくげんのかなしきまにさけばん
 - 9 とすれともさらにこゑいてさるなり五には
 - 10 大けうくはツちこくこれは天ちにひきて
- (三十四丁・裏)
- 1 さけへともくるしみさらにやまさるなり六ツ
 - 2 にはせうねツちこくこれはあゆむあしのうらこと
 - 3 よりくわゑんいて、おとりはねてくをう
 - 4 くるなり七には大せうねツちこくこれはざい
 - 5 人ともあつまりいたるところにひやくちやう計
 - 6 のくわゑんやけのほるあひたかたはらなる
 - 7 水へとひいれはあか、ねのゆのことくになり
 - 8 てくるしみをうくるなり八にはむけんちこく

- 9 なりかのむけんちこくはくろかねのもの
 - 10 たて、一たひかのちこくへおつるものはな「ま摺消重書」ん
- (三十五丁・表)
- 1 まんかうをふる共うかふ事あるへからすく
 - 2 をうくる事よるひるひまもなしればむけん
 - 3 とかきてはひまなきとよむなりかの八の
 - 4 ちこくともにひとつに十六つ、のけん
 - 5 そくのちこくあるあひたあわせて一百三十
 - 6 六のちこくなり又かたはらをみればくろかねの
 - 7 からすさい人のまなこをぬく又くろかねの
 - 8 いぬさい人のなふをくらふ又かたはらを見れば
 - 9 さい人四人ありかなしむこゑをよくくきけは
 - 10 四人のざい人はにツそうしやう人心へ給ふ人く
- (三十五丁・裏)
- 1 なりこれはしへいのおと、にたんかうしてかん
 - 2 せうしやうをうしなひ申せし人くなりよくく
 - 3 すかたをみれば一人はみツときのきやう一人は
 - 4 さたくにのきやう一人はすかねのあツそん一人は
 - 5 多んきのみかとにてましますなりそのとき
 - 6 にツそうしやう人こくそツともとい給ふいかな
 - 7 れは多んきのみかとをはしめ申かの人くは
 - 8 これにましますとありければこくそツこたへて
 - 9 いわくしやう人はいましたしらすやとてかの四人の
 - 10 人たちをくろかねのひしほこにさしつら
- (三十六丁・表)
- 1 ぬきこれ見たまへ多んきのみかとはと又かの「マコ」
 - 2 かの人くなれるすかたよとて又大くは多んの
 - 3 中へなけいる、そのときしやうにんなみたを

- 4 なかしなけき給ひけるはさてもかのゑんきの
 - 5 みかと、申は大日本こくのあるしとむまれきて
 - 6 めいわうにてましませはかすのねうほうなん
 - 7 はうはたまのかんさしをかたむけてきうか
 - 8 さんふくの夏の日にはす、しき風をもとめん
 - 9 とてしんか大しんあふきたてまつりけんとう
 - 10 そせつのふゆの夜はかんをふせき申さんとて
- (三十六丁・裏)
- 1 りうらきんしうのそてをかさね又くにく
 - 2 にてはきんりんしやうわう天ちやうちきうと
 - 3 いのられ給ひしかいまの御ありさま見るになみたま
 - 4 と、まらずにツそうしやう人ゑんきのみかとに
 - 5 申給ふやうぐそうはふしきにこれへまいりて、
 - 6 かしやくせられし事を三ときのいとまをみやう
 - 7 くはん神にこひ申給へこ、ろしつかにかたり申
 - 8 てしやばへかへり申さんとありければそのとき一
 - 9 人のこくそつすこしもいたはしけなくゑんき
 - 10 のみかとをくろかねのひしほにてさしつら
- (三十七丁・表)
- 1 ぬきてさしあけてこれ見給へといひければ
 - 2 しやうにんたなこ、ろをあわせてみかとをらひ
 - 3 し給ひければおにともこれをみて十ちやう計
 - 4 にたちあかりてすはそれよとてなさけなく
 - 5 みかたとをねツてツのうへになけつすみの
 - 6 ことくなる御かはねをさんく、にうちくたき
 - 7 御かたちも見えたまはざるをおにともあしにて
 - 8 ひとところへけよせく、てくはツくといふもん
 - 9 をとなへければ又もとのかたちになり給ふそのとき

- 10 しやうにん申給ふやうなんち我をうやまふ事
- (三十七丁・裏)
- 1 なかれめいとはたかきくらいなしつみなきを
 - 2 もツてたかきくらいとすれば五ツのとかあるに
 - 3 よりてかのちこくにおちたり一にはち、のほう
 - 4 わうのかんせうしやうのそうせうに御いてありし
 - 5 ときにわにたて申見くたし申あまつさへお
 - 6 ほせもちい申さ、りしとか二にはざんしんお
 - 7 なすしへいのおと、をけつくうしてとかもなき
 - 8 けんしんふさうのかんせうしやうを流さいにお
 - 9 こなひしとか三にはかんせうしやうのらいんと
 - 10 なりてうらみのありしときいのり給ひける
- (三十八丁・表)
- 1 そんいそうしやうにふせをまいらせさりしとか
 - 2 四には月ことにほとけのゑんにちをおかみ申
 - 3 さぬとか五にはわういにそなはりたるはかりにて
 - 4 こしやうをねかふ事なきとかなりねかはくは
 - 5 しやうにんしやばへ御かへりなにかしのために
 - 6 せんごんをなしてたひたまへとありければその
 - 7 ときさていかやうなる事をかなし申さん
 - 8 御のそみによるへしとありければみかと
 - 9 こたへての給ひけるはそれせんごんのしなさま
 - 10 く、なれともまつ一にはほとけをくやうし
- (三十八丁・裏)
- 1 二にはほけきやうをしよしやしおなしく
 - 2 とくしゆし三にはそうにふせをくやうし我が
 - 3 ためにそとはをたてたまへとのたまふとき
 - 4 こくそつともこゑをいからかしこれほとのごツ

- 5 ほうふかきさい人にいつのひまかあるへきとて
 - 6 又なさけなくみかとをひしほこにさしつら
 - 7 ぬきくはゑんの中へなけ入申そのときざわう
 - 8 こんけんつげのたまはくなんちに六たう
 - 9 さんつのめいどをみする事かのゑんきのみかと
 - 10 のありさまをみせんためなりいそきしやばへ
- (三十九丁・表)
- 1 かへり此ありさまをかたるへしとありけり又
 - 2 しやうにんかたはらを見たまへはまんくたるうみ
 - 3 の中にひとつのしよありたまのいしをた、み
 - 4 はくれんのか、みのことくこかねのいさこをほ
 - 5 さんこの月てらせりその中になゑのれん
 - 6 けありはのうへに八かくのほうたうありその
 - 7 ほうたうの中にこんしきのめうほうれんけ
 - 8 きやうのたまのちくのひかりはたかひにか、
 - 9 やきてりやうふのまんたらあさやかに見え
 - 10 けりそのほうとうのきたのかたにたまの
- (三十九丁・裏)
- 1 ろうかくありあれはいかにととへはあれこそにて
 - 2 ほんにてはかんせうしやうと申この世かいては
 - 3 大しやういとく天神と申とありけるほとにたち
 - 4 よりおかみ申ところとうつくしきとうし
 - 5 一人いて、こかねのとひらをおしひらきたまの
 - 6 みずをまきあけ給ふうちを見ればかんせう
 - 7 しやうはしやうれんしひの御まなしりあさや
 - 8 かにたまのかんさしこかねのしやくをもち給ひて
 - 9 しやうにんにの給ふやうしやうにんはしやは世
 - 10 かいにてぢひ第一の人にてましませはよく

- (四十丁・表)
- 1 くき、給ふへし我しへいのおと、かさん
 - 2 さうによりてわかなけきのなみたつもりて
 - 3 日本六十六くにをばん里のさうかいのうみに
 - 4 なさはやとおもひしに大日本この事
 - 5 は大日のほんこくなれはかみくもあとをたれ
 - 6 給ひしよてん三ほうもとこしなひになう
 - 7 しうしてふつほうはんしやうのくになれはさら
 - 8 にわかちからにかなはずあくしんをすて、ぜん
 - 9 しんとなりてかくのことくいたれとも我けんそくは
 - 10 十六まん八せんけんそくのき神なりわれを
- (四十丁・裏)
- 1 おもはんものを第一にやくひやうのなんを
 - 2 のかれへきなりしやうにんいちくに此よし
 - 3 をひろめたまへは上人しやはへかへらせ給ひて
 - 4 せうへい四年八月一日にしに給ひしか
 - 5 おなしき十三日によみかへりめいとありさま
 - 6 てんまんでんぢんの事をありのまゝにものかたり
 - 7 したまひしより又きとくともおほくあり
 - 8 又天きやう五年七月三日みやこにしのきやうに
 - 9 ありける人のむすめにあやこといふに天神
 - 10 つき給ひたくせんしたまひけるはへいせい
- (四十一丁・表)
- 1 むかしうこんのは、にあそひし事たねんなり
 - 2 みやこのほとりかんせうしやうのちこゝろを
 - 3 と、めんと思ひしかともつくしへなかされせんぜ
 - 4 のしゆくこうをくはんするといへとも心になをうら
 - 5 みをのこすよるひるむねをこかすゆへにまう

- 6 しろのおにとなりて身をかくすへきやともなし
- 7 ねかはおはなんちうこんのは、にほくらをつくり
- 8 てわれにくれよとありけれともことたらぬ身
- 9 なれはうこんのは、はつくらすされともをのれか
- 10 家のほとりにすきかきはかりして四五年

(四十二丁・裏)

- 1 ゆはひ申たれとも天神の御こゝろゆかす
- 2 又かさねて御たくせんありけれは天りやくぐはん
- 3 ねん六月九日きたのへうつし申なりその、ち
- 4 ひらのと申ところによしたねと申人の子七さいに
- 5 なるにつきて又たくせんありけるはわれむかし
- 6 かんせうしやうといはれしときのゆめにまつ木
- 7 一ほん我が身よりおひてやかてかるゝと見たり
- 8 しをちかへさりけれはなかされたりしなりまつ
- 9 の木かれたれは身もうせしほとにいま一たひ
- 10 まつのたねをまきて一夜のうちにまつを

(四十二丁・表)

- 1 せんほんおやさんこのきとくを見て我をうた
- 2 かふものなかれもしわれにうたかひをなすもの
- 3 からは十六まん八せんのけんそくをはなちて
- 4 やくひやうあくさうをもつてはツすへし
- 5 又ほくらのあたりにてしかをころす事な
- 6 かれむまをかへすへからす又おやのためにあし
- 7 からんものをはまふりうき神どくじやどく
- 8 りうをはなちてばツせんおやのためよからん
- 9 ものをは日に三度かけをうつしまほるへし
- 10 かりそめのきやうけんききよにもふツほう

(四十二丁・裏)

- 1 をそしりにくむ事なかれわか身のむかし
- 2 をつくくゝとくはんしてこうくはひする事は
- 3 だうてらのひとつをもつくらすしよりやうの
- 4 一かしよもよせすあまツさへゑいさんへまいる
- 5 みあしかのふんをとゝめてわか物にしたりし其
- 6 とかあれはじんつうじぎいの身なれとも日に一
- 7 度くをうくるなり我かためにほツけさん
- 8 まいのてらをたてあけくれのたいこのこゑを
- 9 きかせみのりのこゑをちやうもんせはさいしやう
- 10 はせうめツすへきなり我つくりけるしの内に

(四十三丁・表)

- 1 家をはなれて三四月のし又家にかへらん事
- 2 をおもふといふ此ふたつのしをくちにすさひ
- 3 ゑいせんものをはいのらんとこのねかひをみ
- 4 てんと御たくせんありてあからせ給ひけりよし
- 5 たね一こんもちかへすふたにかきてうこんのばゝ
- 6 のあさ日てらのしやもんとに此よしをひ
- 7 らうしけりさて夜一夜にまつの木すせん
- 8 ほんおいたりけり此きとくによりたかきも
- 9 いやしきもあゆみをはこふ事かきりなし
- 10 ゑんゆういんの御子にてうのいんの御ときちやう

(四十三丁・裏)

- 1 くはんのとしより天けん五年にいたるまで七か
- 2 年の内に大りのゑんしやう三とありたゝ事
- 3 にあらず又大りを御つくりありてつぎの日
- 4 おしいたをみたまへはうたを一しゆむしくいに
- 5 したりそのうた
- 6 つくるとも又ややけなんすかはらや

- 7 むねのいたまのあらんかきりは
- 8 とありければこれをあらんかみといわ、れ給ふ天神
- 9 の御しよきやうなりとしんか大しん申させ
- 10 たまへは一てうのいんはおとろかせ給ひてつくしへ
(四十四丁・表)
- 1 かんせうしやうの御へう一くらいたかきくはんと
- 2 をおくり給ふ御つかひにはすかはらのもとまさしやう
- 3 りやく四ねん八月十九日にくたりあんらくしへま
- 4 いらて御へうのうへにりんしをさしをきらい
- 5 はひして此りんしをよみあくるところに御へう
- 6 のうへにしろきいし一ツにはかにいてたり此いし
- 7 をみればあさやかなるもんしともあり
- 8 忽驚勅使排荆蕪 宮昌高加拜威成
- 9 雌悅仁思覃邃窟 但着存歿左遷名
- 10 とありければちよくしおとろきてかのいしをいた
(四十四丁・裏)
- 1 きて大りへまいりけるみな人おとろきてきとく
- 2 のよしさいたしけりたうど天ちくにもかゝる
- 3 きとくはあらしとて内のほうさうにこめ給ひて
- 4 つきのとし又しやういちい大しやう大しん大しやう
- 5 こくとくはんをおくらせ給ひける此ときこそ
- 6 天神の御こゝろもやはらき給ひて此うへは
- 7 大りへ御うけ文をまいらせんとてしゆかう
- 8 ちこくにをちてたうふうといふものかきを
- 9 めしあけてか、せ給ふ
- 10 昨日為北闕被悲土 今日作西都雪恥尸
(四十五丁・表)
- 1 生恨死歆其我奈 令須望仰護皇基

- 2 これをたうふうかきたりと一てうのいんの御ゆめに
- 3 見給ふほどにさらはたうふうかかきたる物にあ
- 4 はせて見よとてあわせ見給ふすこしもまか
- 5 はすさてかんせうしやうはちこくてんたうをも
- 6 わかまゝにめぐり給ふそといよくおそろしく
- 7 きとくに思ひ人く身のけつたツてたツとみ
- 8 申事かきりなしこれをも内のほうさうにお
- 9 さめをき給ふ大りの御たからものはかうほう大し
- 10 のつくり給ふもくさうくはんをんでんきう大し
(四十五丁・裏)
- 1 のあそはし給ふくはんをんきやう又とうほう
- 2 さくかもしけんしやうのひわかやうのたから物は
- 3 かすをしらすけんれいもんいんのきさきのみや
- 4 と申せしときみやこの内にてきぬうせたまへは
- 5 あやしみおもはれけるねうほうきた野に
- 6 七日こもりてあやまりなきよしをうたにて
- 7 いのり給ふ
- 8 しるらめやなき名たつ身はうかりきと
- 9 あらんかみとなりしむかしを
(四十六丁・表)
- 10 とよみていのりければすなはち御りしやう
- 1 をかうふりてはちをきよめ給ふ
- 2 ちふきやうみつとしの御子ほうしになりてせ
- 3 そんちのにんしゆんあじやりと申せしいとツを摺消重書たツ
- 4 とくましませしをあるねうほうそら事を
- 5 申つくるにんしゆんあじやりこそおんなにあい
- 6 ましますと申けるをかなしみなき給ひて
- 7 きた野に七日こもりいのり給ふ御うた

8 あはれとも神くゝならはおもふらん

9 人こそ人のなき名たつとも

10 とよみていのりければいつわり申せしねうはう

(四十六丁・裏)

1 くれなゐのはかまをこしにまきて手には

2 しやくちやうをもちてふりならしおもてをかくし

3 てにんしゆんあしやりにそらことを申かけし

4 わかありさまあらはつかしやとてみやこ内

5 をおとりまわる見る人きく人これににく

6 まぬはなしみかと此よしきこしめしおよひ

7 きとくなりさらはあしやりをなため申きやう

8 じんのかちをさせ申さんとてきたのへちよく

9 しをつかはし給ふあしやりはぢひにてまし

10 ませはやかてきた野をいて給ふかのねう

(四十七丁・表)

1 はうにさてこりよとてふとうのしゆくのしゆを

2 みてたまへはかのねうはうしはらくしにいりや

3 かねほんしやうにさめければみかたとたつとくおほし

4 めしてうすきぬと申御馬をふせにまい

5 らせ給ふ又ちかころの事なるにきたの、

6 みたらしのにしきやうにましますときある

7 人かのみたらしの御まへを「に摺消重書」くるまよりおり

8 もせすとをりければかのくるまうしにはかに

9 ころひてのりたる人はかちはたしにて行を

10 きやうわらはへとも手をたゝきてみたらしのまへ

(四十七丁・裏)

1 をはよくのりたりとわらはれてめんほくうし

2 なひてにけたりけり

3 きたの、御まつりはむらかみの天わうより此かた

4 八月四日にさためられくげ大しんの御さため

5 にておふくらのせうのつとめ給ふ

6 多んきうくはんねん九月の比にんわちのいけ

7 のうへのはうにねんさいと申しやもんりんしう

8 しやうねんにわうじやうのそくはひをとげはや

9 とてくまの、なちに百日こもりせんしゆ

10 くはんおんにいのり申ければ百日と申あかつき

(四十八丁・表)

1 御むさうをかうふりけるはりんしうしやうねん

2 ののそみあらは天神にまいりいのり申へし

3 とて七十はかりのらうそこのひたいのなみは

4 さひしくたちてかうへにしもをいたゝきかう

5 のけさ衣をちやくしすいしやうのしゆすを

6 もちてさもあらたにまくらかみにておしへ

7 給ふほとに御をしへのことく此ほときたのへ百

8 日こもり申候へは百日と申けさのあかつき

9 御てんの御戸きりくどあくど見申せはなを

10 しの御そてはかりさしいたし給ひそれにん

(四十八丁・裏)

1 げんのいのちおはらんとするきさみはましやう

2 あつまりてりんしうのしやうねんをさまた

3 くるゆへに心みたれあしきさまにくるふ事

4 人ことにありなんちいのれともさらにたやす

5 からすしかりといへともくまの、なちさんたき

6 もとのせんしゆくはんおんなんちをあはれみ

7 給ふ又なんちもたゝひとへにわうじやうの心

8 さしねんころにいのり申あひたわれけんそく

9 十六まん八せんのきぢんどもりにんしうのき
10 さみをしゆごさせへし比はみやうねん二月

(四十九丁・表)

1 のひかんの七日といはんあしたをまつへしその
2 ほとはまきる、事もなくあみたの御まへにて
3 ねんふツ申へしためて十五のほさつうち
4 らいかうしたまひてこくらくへむかひ給ふへし
5 とあらたかに御じげん候と申ければほとなくその
6 としをおくりこし二月のひかんになる七日
7 と申あしたの事なるにしうんたなひきほ
8 さつしやうしゆらいかうおんかくのこゑして
9 くはんおんのれんたいにのせてこくらくへわう
10 しやうする見る人きく人いよくきたの、

(四十九丁・裏)

1 天神をしんかう申事かきりなし「し」と「摺消」
2 しら川のでんわうの御ときせうほう二ねんの比
3 みやこ七てうにあかねさいくする人のむすめ
4 を二人もちたりかれら二十四のとしかのは、
5 わつらひてはやなんきになりまつこにおよぶ
6 ととき二人のむすめをいとせめてふひんに思ひ
7 おとこにあふてなみたをなかしいきのしたより
8 かきくとき申けるはこのとし月ふうふのち
9 きりあさからすされはなこりおしきと申も
10 なかくおろかなりかまへて我あとをとふらう
(五十一丁・表)
1 事むやくにまいらせ候「合字」あふたりのむすめにねん
2 ころにわたらせ給ふへしいまははやち、より
3 ほかにたのみ申へきかたもなしはらくつ

4 まをむかひさせ給ふ事なかれたしかにま、
5 は、にそふならはいかほとものもおもひいよ
6 くわれをこひしくおもひなげくなみた
7 をくさむらにても見るならばこしやうのさ
8 はりとなりなんさなきたにおんなほこしやう
9 さんしうとていつ、のさはりあれはおとこより
10 つみふかしと申せはかまへてあのむすめとも

(五十一丁・裏)

1 につらきおもひなさせ給ひそとてやかて
2 むなしくなりにけりかくておとこはふうおん
3 あひの中「某字摺消重書」なれはなげくとは申せともいひをきし
4 ことはをはいつそのひまにうちわすれや
5 かつまをそむかひけり此ま、は、かの二
6 人のま、むすめをにくむ事よのつねなら
7 すかくてひめともつらきなけきのあまりに
8 かのいもふと申やういかにあねこきこしめせ
9 されてもわれらいかなるつみのむくひにてちふさ
10 のは、にはやくはなれ申かゝる思ひをする

(五十一丁・表)

1 ことやらんきたの、天神はぢげんあらたにまし
2 ませはいさやきたのへまい「合字」りわれらきやうたいか
3 ゆくゑをいのり申さんとてきやうたいうち
4 つれ七日こもり申よるひるきやうたい
5 かきくときやうちなけきのり申けるは
6 なむやてんまんでんじんよからんたよりにつけ
7 給へこ、ろやすくなしたまは、むなしくなり
8 給ひしは、のきうやうをおもふやうに申さん
9 それもかなはぬものならば七日の内にいのち

10をめされては、とひとところへみちひき

(五十二丁・裏)

1給へと一すちになげき申ければ天神も

2まことにあはれとおほしめしかたはらにこもりたる

3いやしきあまのありけるにつき給ひてあら

4たにたくせんあるやうはいかにこれなるきやう

5たいのひめともよなんちともはむなしくなりし

6は、のきやうやうをいたしたきといのれこう

7く、のころさしさらにいつわりなければ

8われまもりのかみとなりてゆくす多はん

9しやうすへきとて天神あからせたまへは

10これをきく人はす多はんしやうあるへきひめなれば

(五十二丁・表)

1あはれむかひとらはやとたかきもひき、もかの

2ひめに思ひをかけぬはなしこ、にはりまの

3かみと申人そのときこもり給ひけるかこれは

4いまた御子をもちたまはぬ人にてまします

5か御子を一人いのり申されけるところに

6た、いまの御たくせんにひめはす多はんしやう

7とあれはかのひめをむかひととりて子を

8まふけはやとおほしめしやかてあねのひめに

9ふさいのやくそくにて御ともありてかへり給ふ

10いもうとのひめも天神の御まもりめなれば

(五十二丁・裏)

1たかき人のつまとなるいつれもめてたく

2さかへ給ふほとにをやのきやうやうこ、ろの

3ま、にとふらひ給ふかやうのきとくとともらく

4ちうらくくはひにかくれなければきたの、

5御めくみをあふかぬはなし何事のねかひ

6なりとも天神にいのり申はたちまちに

7かなふへきなりた、しうたかひのこ、ろをなせは

8かなふへからすかみはしやうちきのかうべに

9やとり給ふとなればみちのみちたる事を祈かぐり

10申さんにて播消重書なにのうたかひかあらん天神は十六

(五十三丁・表)

1まん八せんのけんそくにたまはせはよろつ

2にいろひ給ふほとけともなりほざつともなり

3かみとなりけたものとなりましやうとなり

4やくじんとなり火となり水となり木となり

5くざとなりいかつちとなりくもととなり風と

6なり三せんせかいをときまにへんまんし

7給ふじんへんじんつうのかみにてまはせは

8天まん大じさい天神と申なり

9かんせうしやうにてわたらせたまひしときあし

10きふるまひともありしゆへにむしツのなんに

(五十三丁・裏)

1あひ給ふせかひにおみてかくのことくのふる

2まい人ことによくくつ、しむへき事

3す、りのおもてをくちにてほくりふく事

4にこれる水をす、りの水にする事

5す、りのおもてにものかく事

6かへさなるた、みにある事

7た、みのへりをふむ事

8やり戸しやうしのしきゐをふむ事

9すひつのふちをふむ事

10まんまくちやうにて手をのこう事

(五十四丁・表)

- 1 のみのこせかるゆにてくちをすゝく事
 - 2 はき物のころひたるを手にてなをさすはく事
 - 3 月のこへたるもとゆひにてかみをゆふ事
 - 4 つめきるにかたなをとりかへす事
 - 5 しやうきうをたゝみのうへにをきてとうさする事
 - 6 人のきたるかんふりにちりほこりのあるをとらさる事
 - 7 かやうのあしきふるまいともゆめくゝなす
 - 8 へからすむしツのなんをゆひかけられしも
 - 9 此ゆへとのちこそ思ひしられけれ
 - 10 天神へまいるときとなふへきもんの事
- (五十四丁・裏)
- 1 かんふもりやうしゆツせ一さいしゆしやうのういん
 - 2 たうたうひにしんおにちやちツみやうちしや
 - 3 おうしゆこ

〔朱印〕

寛永貳年

三月下旬書之畢

〔完〕